

SawamotoDentalOfficeNews

2014年11月号



朝夕冷え込む季節になりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。季節の変わりめですので、くれぐれもお体にはお気を付け下さい。今月の澤本新聞は歯科助手の戸村が担当させていただきます。



ガン治療を受ける患者さんが、治療前にお口のなかを清潔にすることで合併症を減らせるって、ご存知でしたか？治療法のめざましい進歩のおかげで、いまやガンは「治る病気」になりました。しかし一方、体力を奪い治療の邪魔をするつらい合併症に悩む方も少なくありません。そこで、ガン治療の効果を上げるために、ぜひともお伝えしたいことがあります。

合併症はなぜ起こる？

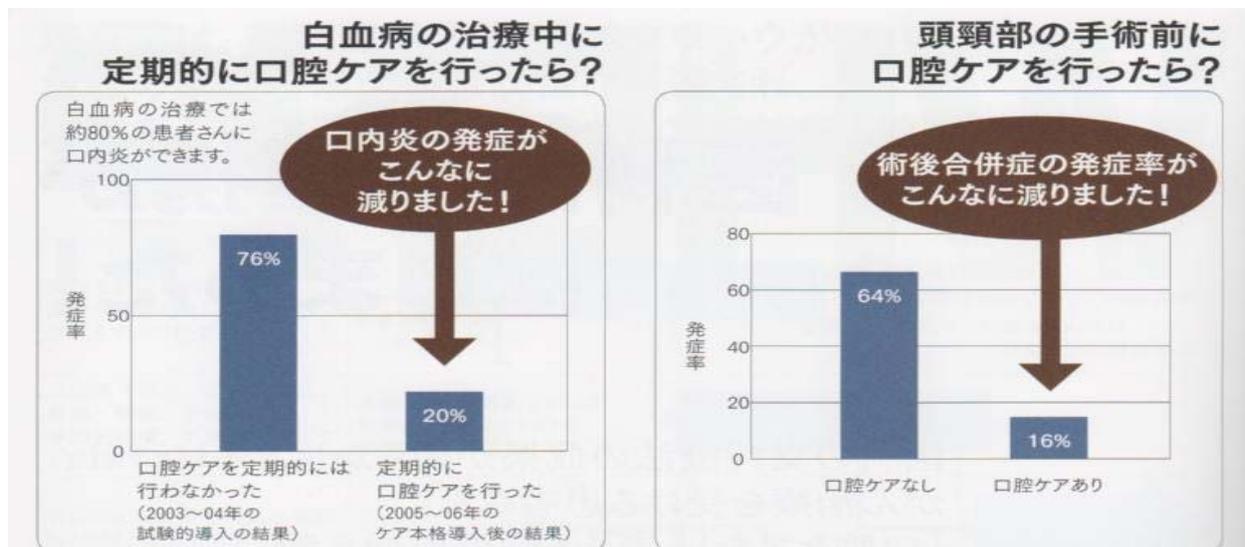
いまやガンは、検査による早期発見、そして治療法のめざましい進歩のおかげで、治る病気になりましたが一方で問題も生じています。

治療方法が進歩するにつれ、副作用による合併症に悩む患者さんが増えているのです。

たとえば抗ガン剤治療は、全身のがん細胞をやっつける治療ですが、これによって健康な細胞もダメージを受けます。細菌やウイルスに対する身体の抵抗力が弱まり、口のなかの細菌によってひどい口内炎が起きてしまいます。食事や睡眠がとりにくくなると、体力の回復はもちろん、治療の継続が難しくなってしまうことも少なくありません。

口に関係する合併症って？

合併症は口内炎だけにとどまりません。歯周病をそのままにして抗がん剤治療を始めれば、急激に歯周病が悪化します。また、口の中細菌が肺に入ったり、ただれた粘膜から全身にまわると、肺炎や敗血症など重篤な合併症を引き起こします。口の中にいる細菌が、患者さんのガンとの闘いを邪魔し、足を引っ張り、新たな病気を発症させるのです。こうしたことは抗ガン剤治療だけでなく手術で体力が落ちたり、頭頸部に放射線治療を行う際にも起きがちです。



現在、各都道府県の歯科医師会とガン専門病院が連携し、ガン治療を受ける患者さんの口の痛みや悩みを軽減させガン治療の質を向上させる取り組みが始まっています。2人に1人がガンになるという時代、ガンになったとき、安心して歯科にかかることのできる体制を作っているのです。

やれることはすべてやって、治療を有利に！

定期的に歯科受診して口をきれいに保っておくと普段はもちろん、「いざ」というときも安心です。

私たち歯科医療従事者の役割は、お口の中をケアし本来のお口の機能を保つことです。

しかし、私たちの仕事も、ガン治療にも貢献できることが明らかになった今、歯科の口腔ケアの大切さを、多くの方に知って頂きたいと思っております。

そして、いざとなった時、やれる準備は全てやって、病気と有利に戦ってください。